



月刊 千葉動力車

大月駅事故の本質

責任はJRにある



連載の冒頭で述べたように、JR東労組は大月駅事故直後の機関紙で、「今はっきり言えることは入換信号機を見ないで走っていったということ」「この事実だけを見ても第一原因は信号機の見間違い」等、繰り返して「当該運転士が悪い」と述べるだけの記事を掲載し、一切の責任を自らの組合員である運転士のミスに極限した。この記事には、事故の背後に潜む問題点の指摘は一切ない。

バイトレスという学者は、「不注意という言葉は、事故の真因を隠す煙幕のようなものであるから用いないほうがよい」とさえ言っている。JR東労組は、まさに自らの組合員を犠牲にして煙幕をはり、営責任に追及の手が及ぶことを何としてもくい止めようとしたのである。

長になった。責任追及が原因究明に転化したということは、経営哲学あるいは企業文化の極めて高いレベルの所産だ。「責任追及から原因究明へ」という世界に冠たるテーマ、概念、カテゴリーを明確にし得たJR東日本の労使の高いレベルをこれからも誇りにしていきたい」と、一種異様なまでの当局への全面賛美を繰り返して口にしてる。

「忠誠」が全て！
例えば、乗客と運転士の尊い生命が奪われた忘れもしない東中野駅事故。このとき東労組は、自らの組合員の生命が奪われたにも係わらず、直ちに機関紙で、

「世界に冠たる?」
しかもそののみならず、事故から一カ月後に開かれた第10回政策フォーラムの講演で松崎は、事故問題に関し、「責任追及から原因究明へ」という方向を明確に示し得たJR東日本の経営幹部は立派だ。世界に冠たる資質を持っている。松田社長は大社

の軽視・無視を増幅させるのは当然の帰結である。

東労組は、JR各社のなかでも、真つ先に動乗勤の改悪に合意したことをはじめ、限度を遥かに超えた保守・保安部門の合理化・要員削減の全てを裏切り妥結し続けてきた。

動乗勤の改悪と、それに伴う乗務労働の条件悪化が事故の背景にあることは先に述べたが、大月駅事故では、それ以外にも本線を使用して通過列車の合間をぬって入換を行う危険作業にも係わらず、誘導担当が配置されていなかったこと、設備的な面から言っても、脱線用の安全側線がなかったことなどが、重大事故発生の背後にあるのは指摘するまでもないことだ。これは、安全対策上の重大な不備に他ならない。しかし東労組は、こうした問題には一切口をひらかない。それどころか全てを積極的に容認してきたのである。

「原因究明」?
東労組が、「世界に冠たる」と形容する「責任追及から原因究明へ」という、全く内容空疎なスローガンも、実際上は当局への忠誠の言葉として繰り返されているだけである。

「原因究明」?
東労組が、「世界に冠たる」と形容する「責任追及から原因究明へ」という、全く内容空疎なスローガンも、実際上は当局への忠誠の言葉として繰り返されているだけである。

一方で会社幹部は、どのようなミスを取らねばならないか、責任をとらねばならないか。東労組は、こうした現実を百も承知で、「経営哲学・企業文化の極めて高いレベルの所産」などと、歯の浮くような言葉で会社を讃える。こうして見ればその意図はもはや明らかである。

また、このスローガンのもうひとつの意図は、現場の組合員に対するたぶらかしだ。安全・運転保安問題で一切闘うことのない現実を空疎な言葉でごまかへし、すり替え、騙しているのだから。しかしこの点でもはつきりある。しかしこの点でもはつきりある。しかしこの点でもはつきりある。

「原因究明」?

東労組が、「世界に冠たる」と形容する「責任追及から原因究明へ」という、全く内容空疎なスローガンも、実際上は当局への忠誠の言葉として繰り返されているだけである。

「忠誠」が全て!
例えば、乗客と運転士の尊い生命が奪われた忘れもしない東中野駅事故。このとき東労組は、自らの組合員の生命が奪われたにも係わらず、直ちに機関紙で、

「世界に冠たる?」
しかもそののみならず、事故から一カ月後に開かれた第10回政策フォーラムの講演で松崎は、事故問題に関し、「責任追及から原因究明へ」という方向を明確に示し得たJR東日本の経営幹部は立派だ。世界に冠たる資質を持っている。松田社長は大社

運転保安確立へ

われわれは今こそ、反合・運轉保安闘争の全面的な強化を立ちとらなければならない。大月駅事故は、改めてわれわれに闘いなくして安全なし」という現実をつきつけた。安全の解体に向けてつき進むJRの結託体制を打ち破ろう。恒常的なストライキ体制を背景に、安全の切り捨てに関する点検・摘発、合理化闘争を強化しよう。ペテラン運転士を職場に戻せ! 強配転者の原職復帰をかちとろう!

新 たな 10 万人 合理化 粉砕 !! 労働 運動 の 新 た な 潮流 め じ り 全 国 的 に 起 っ て 運 転 保 安 問 題 だ け で 止 ま ら ず 運 転 保 安 確 立 へ